

## 緑のサヘル 2020年度 報告

### 【ブルキナファソ】

2020年、ブルキナファソも新型コロナウイルスに大きな影響を受けました。しかし、早期からの徹底した対策が功を奏し、被害は当初の予想を大きく下回りました。とりわけ活動実施地であるコングシ地域では、感染者を出すことなく1年を終えました。また、ここ数年悪化していた治安が警察・軍隊の活躍によって回復したこと、一昨年、昨年に続いて降雨に恵まれ、穀物の作柄が大豊作となったこともあり、近年になく平穏かつ活気に満ちた一年となりました。2020年度の活動はこうした状況に支えられ、順調に進められました。

#### ● 小学校緑化支援 ●

小学校が行なう校庭緑化活動を支援し、生徒たちに木の育て方や緑の大切さについて、体験を通して学んでもらう活動です。「緑のサヘル」は現地のNGOや行政機関、また各校の教師や保護者と連携しつつ、苗木や資機材の配布、植林に関する講習、普及員による巡回指導、成績発表会の開催等を行なっています。

この活動は2007年より始められ、2013年までに延べ22校によって約5,400本の苗木が植えられました。2014年からは新たな10校を対象とした第2期が始まり、2019年までに計2,700本の苗木が植えられています。既に見上げるほど大きな樹木になったものも多く、学習環境の改善に貢献しています。



熱風や砂埃の中での授業。



成長した苗木に囲まれた校舎。



授業の合間に木陰で休む生徒たち。

2020年度は、コロナ禍に伴う学校閉鎖のために、活動の開始が例年と比べて2か月近く遅くなりました。それでも6月には、現地NGO、環境局、教育局による前年度植林の「評価調査」、また各校の生徒や教師、保護者の代表が参加する「成績発表会」を開催することができました。

7月には10校に対して計400本の苗木が配布され、植栽には586名（男子294名、女子292名）の生徒のほか、多数の教師や保護者が参加しました。また10月には、「PTA（保護者と教職員の会）」、「母女の会（母と女性教職員の会）」が中心となり、計50本の苗木植栽が行なわれました。



各校に表彰状と植林用具を授与。



生徒たちによる苗木の植栽。



各校で生徒たちが灌水を継続。

## ● 村落植林 ●

地域の植生回復や湖岸沿いの土地の有効利用、生活林の造成を目的とした活動で、2008 年以来、延べ 11 村において約 154,200 本の植林を行なっています。「緑のサヘル」は、現地 NGO と協力して各村の植林希望者を募り、苗木や必要資機材の配布、普及員による巡回指導を行なっています。



2008 年



2010 年



2013 年

ここ数年は 10,000 本以上の植林を続けて来ましたが、2020 年度は一部植栽地の水没、収穫作業への配慮、またコロナ禍に対する懸念のため、最終的に 4,760 本の植林となりました。苗木の植栽は例年より 1 か月遅い 12 月に 7 村 15 サイト (24.2ha) に対して行なわれ、計 263 名 (男性 106 名、女性 65 名、子供 92 名) の住民が参加しました。

成長した木々は伐採され、薪として各家庭で利用されるほか、用材として販売され家計を助けています。2020 年度は 4 村が計 303 本を伐採、うち 276 本が用材として販売され、138,900 円の収入となりました。



苗木の積み込み作業。



苗木の植栽には多くの住民が参加。



灌水等の後管理を継続。

## 【チャド共和国】

現地の活動は、治安状況の悪化を踏まえて 2006 年 12 月に終了した難民キャンプでの活動を最後に休止状態が続いています。今年度も、国際機関や報道関係の web サイトを中心に、食糧事情や治安関係の情報収集を定期的に行ない、整理・分析した結果をニュースレターに掲載する等、発信に努めました。

## 【日 本】

東京事務局では、現地活動のサポートのほか、情報の発信や自己資金の改善に向けた様々な取り組みを実施しています。しかし、2020 年度はコロナ禍によって、多くの活動が制約を受けることになりました。

毎年実施して来た講演・講義、国際協カイベントへの参加、事務所訪問の受け入れ等も中止や自粛が相次ぎました。こうした状況の中、一部の教育機関 (大学 2、中学 4) では「緑のサヘル」が配布した講演データを用いて講義や授業を実施、約 900 名が砂漠化の現状や当団体の活動について学びました。また、一般への広報と支援者との関係作りを目的としたニュースレターの発行 (4 回)、アフリカ紹介と活動資金の獲得を目指したオリジナル・カレンダー、T シャツの作製と販売を行ないました。